

## <ラウンドテーブル報告3>

### 初年次教育を基盤とした二年次教育の位置づけとカリキュラム

#### —初年次教育効果フォローアップ—

【企画者】 矢島 彰 (大阪国際大学)  
【司会者】 田中 優 (大阪国際大学)  
【報告者】 佐藤智明 (大阪国際大学)  
            矢島 彰 (大阪国際大学)  
            松田孝一 (大阪国際大学)

#### 1. 初年次教育から二年次教育への接続

##### (1) 大阪国際大学の初年次教育

大阪国際大学において初年次教育の核となっている科目は、学部改組を機にキャンパス共通カリキュラムとした必修の初年次セミナー科目であるセミナーIである。学部学科専門性・職業に関係なく必要となる Generic Skills の中から少人数クラスで実施することが適切と思われる単元でカリキュラムを構成している。学生用の共通テキスト・セミナーIガイドブック、指導者用マニュアルを用いる。セミナーIの共通プログラムで身につけた知識・スキルは、キャンパス内の全科目において前提条件となり、それらを利用して専門科目の授業を設計することができる。共通の科目を担当する教員間でのノウハウの伝達は、実質的なFD活動となっている。セミナーIがキャンパス内において様々な共有化を促進している。

##### (2) 二年次教育の意義

2年次学生へのカリキュラムがさらなる大学教育の課題として挙げられている。初年次教育によって刺激を受けた学生を中だるみさせない教育プログラムが必要である。大阪国際大学枚方キャンパスにおいても、2年次セミナー科目である「セミナーII」のカリキュラムを、学部改組を機に再考することとなった。

#### 2. キャンパス二年次教育再考

##### (1) キャンパス共通プログラム

学内での議論を経て、セミナーIとの接続を意識したセミナーIIの共通目標・共通プログラムが決められた。共通目標は、①研究の基本技術と論理的思考能力の習得、②自己表現能力の向上、③将来の進路と人生目標の探求、となった。また、①自己紹介、②履歴書作成、③キャリア教育、④ライブラリーツアー、⑤エンカレッジタイム(セミナー担当教員との面談)、⑥リフレッシュデイキャンプ(学外実習)、を共通プログラムとした。共通プログラムの①②④⑤はセミナーIにおいても実施しており、学生の1年間での成長を確認する場となる。共通プログラムの多くは、キャリア教育分野である。その背景としては、2年次学生に修得させたいスタディスキルが学科によって異なる点、多くの教員が不慣れなキャリア教育を共通プログラムとして合同授業を実施することによって、担当教員の負担を軽減できる点が挙げられる。

##### (2) 学部学科別カリキュラム

セミナーIIのキャンパス共通プログラムは、年間授業30週中10週程度である。その他の20週の内容に関しては各学科で検討することとなった。キャンパス内2学部4学科のうち、現代社会学部法律政策学科は、全20週をセミナー担当教員裁量授業とした。他の3学

科では、セミナーII 担当教員がクラス分けによって決定するのに対して、法律政策学科では、学生が担当教員を志望する形式となっているからである。情報デザイン学科では、20週分のモデルカリキュラムをセミナーII 担当教員に提示し、その中の5週分を学科共通プログラムとしている。モデルカリキュラムのテキスト作成も進めている。ビジネス学部は、セミナーII 共通化に関して、学内で最も先進的である。以下に、ビジネス学部（経営デザイン学科・経済ファイナンス学科）における実践を紹介する。

### 3. ビジネス学部での取り組み

上記に述べた、枚方キャンパスにおける二年次教育の共通目標・共通プログラムを踏まえ、ビジネス学部では、まず成績評価の共通化を実施した。これは担当教員により評価の齟齬がおこらないようにするためと、ゼミの第1回授業時に、学生に周知徹底をはかる目的もあった。具体的には出欠・遅刻の評価、欠席・遅刻した際のフォローアップの特別課題、好成績を得るためのコツなどである。またキャンパスの二年次教育の共通目標を踏まえ、その上に経営・経済を学ぶ初学者向けの内容を加味した共通テキストおよび教員用マニュアルを作成した。本学は開学当初(1988年)から初年次教育(2年次も含む)を重視しており、1年次から4年次までのゼミを開設していたため、2年次ゼミで用いる教材開発も少なからず研究が進められていた。開学時から存在している経営情報学部では、1年次用テキストと共に2年次用テキストも開発され、学部改組前(2008年)まで学部共通テキストとして使用されていた。このノウハウをベースにビジネス学部では、2008年度より新たなテキスト「ビジネス 学びのことはじめ」を開発し、2009年度より活用している。2010年5月に出版されたこのテキストは、「基礎編」、「ビジネス思考」、「調査・分析・プレゼ

ンテーション」の3部構成となっており、共通プログラムのスケジュールも見据えて、講義展開を1ページから順次実施出来るように配慮されている。「基礎編」は「2年次セミナーの概略」、「1年次の振り返りを含めた自己紹介」、「オフィスアワー」、「学生面談(エンカレッジングタイム)」、「レポートの形式」などの基本的な部分と、「論理的思考」、「ビジネス導入」が包含されている。また「ビジネス思考」の章は、共通プログラムである「リフレッシュデイキャンプ(以下RDC)」に適用可能な内容であり、ビジネス学部経営デザイン学科のRDCでは、事業創造と経営の発展をテーマに掲げ、ユニバーサルスタジオジャパン(USJ)を対象に体験学習型で実施している。さらにこのRDCは現場での実地調査に加え、事前講義2回、事後講義2回の5回完結型で構成し、1ゼミに三つの課題が与えられ、それを解決する形式を取っている。「調査・分析・プレゼンテーション」の章では、自己をプレゼンテーションするために、履歴書やエントリーシートを作成し、発表することになっている。後期の後半では「リサーチプロジェクトII」と称して、1年次で学んだリサーチ(調査)レポートを発展させて、パワーポイントを用いた8分間のプレゼンテーションを実施し、最終的に合同講義で各ゼミ代表がコンテスト形式で発表する。3年次からは専門のゼミになることから、研究の基本技術と論理的思考能力を習得するトレーニングという位置づけである。テキストにはテーマ設定の仕方、発表形式、スライド作成の仕方なども掲載している。

### 4. まとめ

セミナーIの共通化は、キャンパス内の意識・ノウハウの共有に結びついた。セミナーIIを学科・学部での人材育成目標を具現化する科目として、3年次以降の専門教育や就職活動へと展開することが可能である。